

# 中世古戦場の山「三草山」 国有林

みくさやま

兵庫森林管理署



山頂から播州平野を眺望

三草山は、兵庫県の中央部播州平野の北東、加東市社町にあつて、標高四二四メートルで播州小富士ともよばれ、県民に親しまれています。周囲には東条湖ランド、西国二五番札所播州清水寺などがあります。

また、三草山麓には農業用ため池が五〇以上も散在し、これらの水源にもなっています。三草山は古代から、播州と丹波の国境にあつて、争乱の際にはこの名前が出ています。

平家物語に記載されている源平争乱のとき、寿永三年（一一八四年）平家追討の命を受けた源義経は、神戸須磨の一ノ谷に陣を構える平家を目指し、京から丹波を経て当地に迫ります。このとき三草山には、平資盛らを将とする平家の陣があり、義経

軍と対峙します。この三草山合戦で義経軍は、夜襲をかけて平家軍を一蹴します。この後義経は、主力を明石方面から一ノ谷に向かわせるとともに、義経はわずかな兵と山越えで一ノ谷へ向かい、鶴越の逆さ落としを敢行して、一ノ谷の戦いに勝利をおさめます。

また、室町時代には、嘉吉の乱後の一四四四年、赤松家を再興した赤松満政が山頂に城を築き、山名軍に對し挙兵しました。赤松満政は、三草山城に立て籠もつて山名の軍勢と戦い破れています。山頂の三草山城の跡は狭いながらも広場（民有介在地）が残っており、三草山城跡の石碑があり、尾根の随所に砦跡などを



三草神社の鳥居

整備された歩道



三草山

連想させる石積や土塁も残っており、歴史を感じさせてくれます。

三草山の頂上からは、播州平野が一望でき、六甲の山並みや瀬戸内海、明石海峡大橋・淡路島まで見渡せま

す。国有林としての三草山は、主峰から西部・北部と国道三七二号線を挟む西側も含めた、千ヶ瀬を三草山国有林としています。一般には主峰を中心に二つの林班と南東尾根に隣接する朝光山国有林を併せた約四百ヘクタールを三草山と呼んでいます。一帯は県立公園やひょうご文化百選の指定を受けています。

また、国有林ではレクリエーションの森に指定しています。このような状況から地元加東市では、登山者やハイカーに安全のため登山歩道、案内標識などを整備しています。

管理経営面での三草山国有林は、面積約千ヘクタール、うち天然林が五五ヘクタールと天然林が多く、その多くは針広混交林ですが、地質は花崗岩質で、褐色森林土であり、尾根筋は岩石が露出

している状態で、樹木の生育は劣っています。

森林の機能類型は、水土保持林が七五ヘクタール、森林と人との共生林が二五ヘクタール、資源の循環利用林が〇ヘクタールとあり、それぞれ国土保全タイプと森林空間利用タイプに指定し、公益的機能を重視した森林としています。

また、全山が保安林（土砂流出防備）に指定されており、下流域域に対する保全機能を高める施策を旨とした管理をしています。このような三草山国有林は、第二次国有林野事業実施計画では、主・間伐共に指定はなく、事業の計画はありませんが、これからも加東市民を始め、県民に親しまれる三草山国有林として管理していきます。



昭和池と三草山

千六七一・二五二三

兵庫県宍粟市山崎町今宿一〇〇・一  
TEL 〇五〇・三一六〇・六一七〇  
FAX 〇七九〇・六一・四七九〇  
<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/hyougo>